

令和7年度「将来にわたって旅行者を惹きつける地域・日本の新たなレガシー形成事業」

オホーツク文化を核とした「オホーツク遺跡街道構想」事業

実施計画書

令和7年8月

国土交通省 北海道運輸局
株式会社 ライヴ環境計画

令和7年度「将来にわたって旅行者を惹きつける地域・日本の新たなレガシー形成事業」
オホーツク文化を核とした「オホーツク遺跡街道構想」事業

－ 実施計画書の構成 －

1. 本業務の実施方針	02
2. 本業務における実施体制	03
3. 本業務の全体スケジュール	04
4. 今年度業務の全体構成	05
5－(1) モデルコースの検証と磨き上げ	06
5－(2) ガイド人材育成	09
5－(3) 推進ネットワークの運営及び構成員の拡大	11

1. 本業務の実施方針

■ 業務の目的

オホーツク文化は、今から千年以上も昔に、オホーツク海沿岸を中心に栄えた文化です。この文化は、遺跡等の文化財的価値は高く評価されているものの認知度は低く、オホーツク地域を代表する主要な観光対象にはなっていません。

しかし、オホーツク文化は、その豊かな食生活や熊・シャチを大切に祀るという独特の自然観、家畜(豚)の飼育、特有の文様がみられる土器の作成、大陸との交易の形跡など様々な特徴があり、ある一定の時期にのみこの地域を中心に存在した希少性を踏まえると、他の地域には見られない、この地域を象徴する、未来に継承すべき貴重な歴史遺産です。

オホーツク海と流氷の豊かな恵みを中心に栄えたオホーツク文化を観光資源として有効活用するには、遺跡や文化施設を拠点としつつ、彼らの暮らしぶりを体感できる面的で、滞在型の観光エリアを創出することが必要になります。

本事業では「オホーツク遺跡街道構想」で定義付けした「オホーツク遺跡街道」の形成に向けた具体的な業務を実施します。

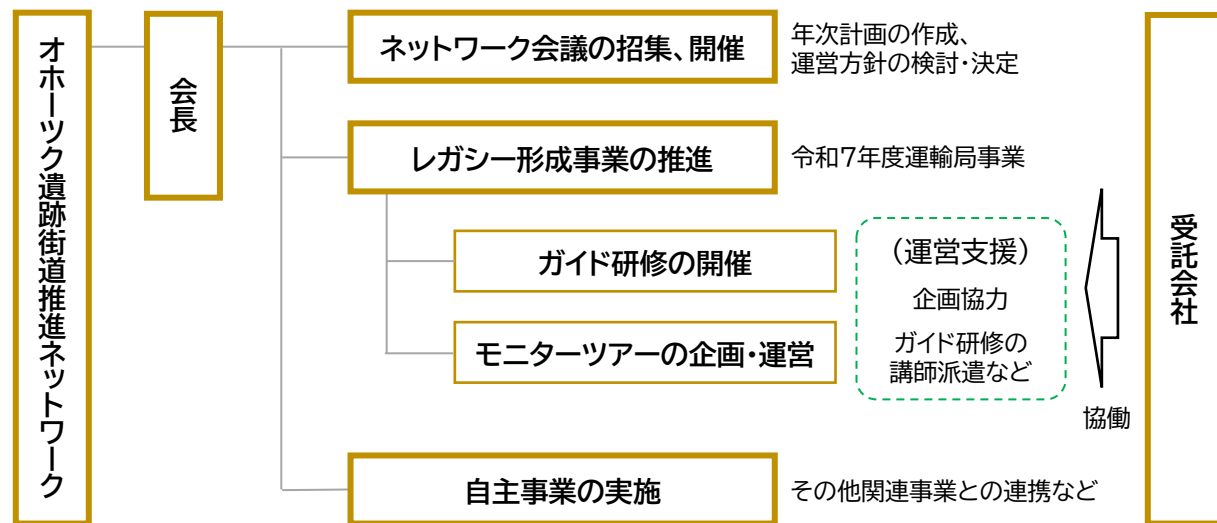
■ オホーツク遺跡街道推進ネットワークとの協働

〈ネットワーク組織との協働〉

「オホーツク遺跡街道構想」の実現に向けては、当構想を理解し、自ら参加・協力してくれる人たちのネットワークづくりが重要であるとの認識から、令和5年度事業において、「オホーツク遺跡街道推進ネットワーク」(以下、「推進ネットワーク」と呼ぶ)が組織されました。

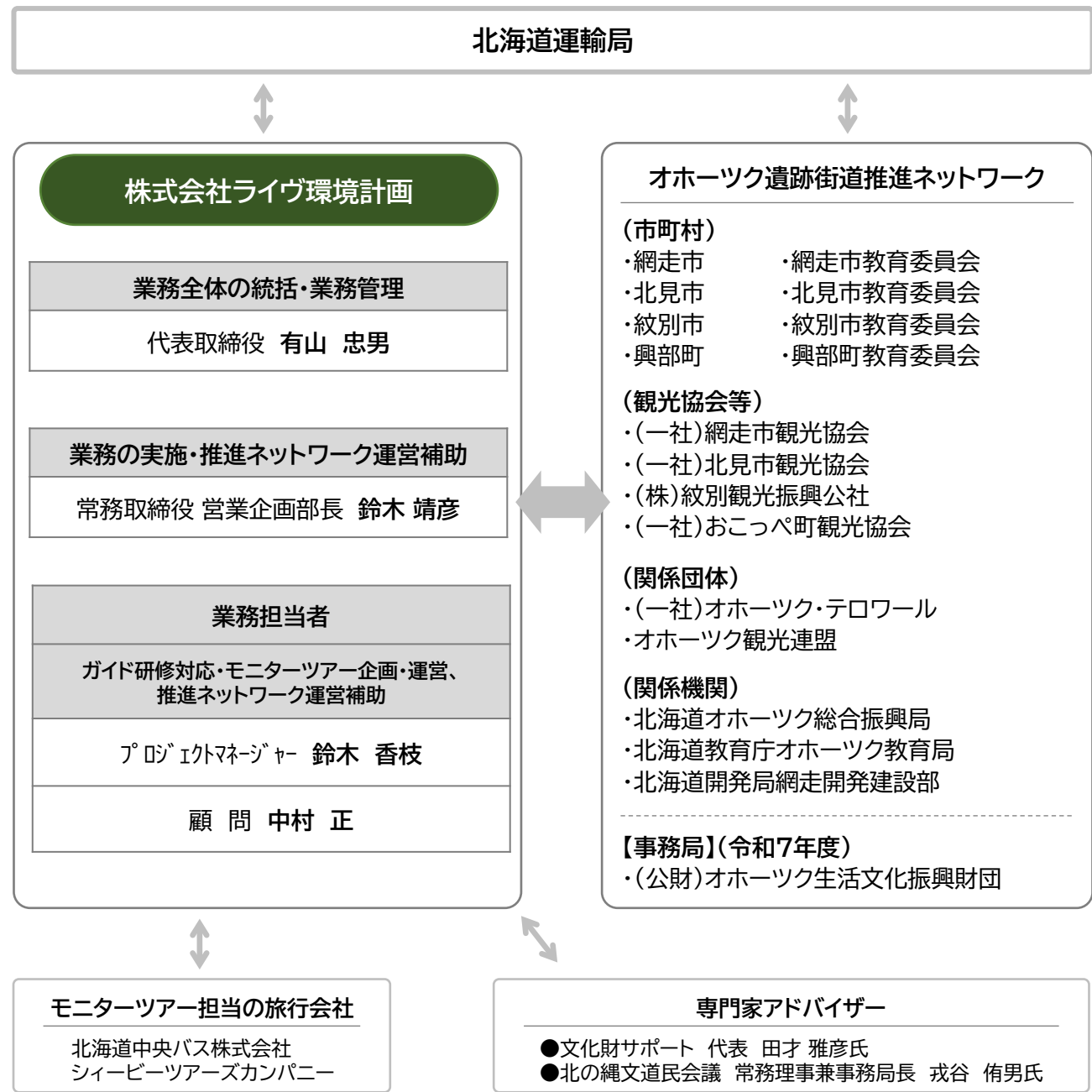
本業務においても、「推進ネットワーク」の運営を支援しながら、地域と協働で進めることにより「オホーツク遺跡街道構想」の実現を目指します。

【運営フロー図】



2. 本業務における実施体制

■ 業務の実施体制・担当者・協力先など



3. 本業務の全体スケジュール

		(1)モデルコースの検証と磨き上げ	(2)ガイド人材育成	(3)推進ネットワークの運営及び構成員の拡大
8月	中旬	・ツアー受入施設との日程調整 ・旅行会社との連絡調整 ・モニター候補リストの作成 ・モニター候補との事前調整	・ガイド講師との日程調整 ・ガイド受講生の募集準備 ・ガイド研修教材の作成 ・ヒアリング調査の設問検討	・第1回会議の日程調整 ・会場、使用機材の手配 ・会議資料の作成及び出席者への事前送付
	下旬	第1回オホーツク遺跡街道推進ネットワーク会議（紋別市）		
9月	上旬	・モニターの決定及び連絡調整 ・モデルコース広告ページ作成	・ガイド研修教材の作成	・会議記録の作成
	中旬	・ツアー配布資料(旅のしおり等)の作成	・ガイド研修の準備	
	下旬	ガイド研修①②③（網走・北見・紋別で1日ずつ実施）		
10月	上旬	・参加者及び受入施設アンケートとヒアリング調査の設問検討	・ガイド研修結果の取りまとめ ・ガイド研修教材の修正	
	中旬	・モニターツアーの準備		・第2回会議の日程調整 ・会場、使用機材の手配
	下旬	モニターツアー(3泊4日 / 10 名以上)		
11月	上旬	・モニターツアー結果の取りまとめ		
	中旬	・モデルコース(各種コンテンツ)の改善案の検討	・ガイド研修プログラムの改善案の整理	・会議資料(中間報告)の作成及び出席者への事前送付
	下旬	第2回オホーツク遺跡街道推進ネットワーク会議（北見市）		
12月	上旬	・モデルコース・各種コンテンツの改善提案	・ガイド研修教材の修正 ・ガイド研修プログラムの改善	・会議記録の作成
	中旬			
	下旬	●第2回会議で下記議題を構成員に投げかけ、第3回会議で協議予定 (※検討状況により、事前に事務局・構成員と個別協議予定)		
1月	上旬	・将来的な商品化に向けた販路体制の構築 ・構成員の拡大に向けた具体的な戦略検討		・第3回会議の日程調整 ・会場、使用機材の手配
	中旬	・ロードマップにおける各取り組みのKPI(重要業績評価指標)の検討		
	下旬			
2月	上旬			・会議資料(最終報告案)の作成及び出席者への事前送付
	中旬	第3回オホーツク遺跡街道推進ネットワーク会議（網走市）		
	下旬			・会議記録の作成
3月	上旬	「オホーツク遺跡街道構想(第3版)」の作成		
	中旬	令和7年度 調査報告書の作成		

4. 今年度業務の全体構成

第1回オホーツク遺跡街道推進ネットワーク会議

8月26日(火)

紋別市オホーツク交流
センターにて開催

〈主な議題〉

- R6 年度の事業報告及び R7 年度の事業内容
- ガイド研修及びモニターツアーの実施計画
- 各エリアの活動報告等、継続的な活動に必要な情報共有及び意見交換
- 次年度以降の事業推進のための体制整備及び構成員拡大の考え方

ガイド人材育成(研修プログラムの作成、研修の企画運営)

開催時期: 9月30日(火)、10月1日(水)、10月2日(木)、各地区1日ずつ

	網走(モヨロ貝塚)	北見(常呂遺跡)	紋別&興部(オムサロ遺跡)
午前 【座学】	会 場: モヨロ貝塚館	会 場: ところ遺跡の館	会 場: 紋別市立博物館
午後 【実地】	会 場: モヨロ貝塚 ほか	会 場: ところ遺跡の森ほか	会 場: オムサロ遺跡公園 ほか

(※募集人員は各地区3~4名とし、全体で10~12名/受講生は原則3地区で開催する講習に参加)

モデルコースの検証と磨き上げ(モニターツアーの企画運営)

開催時期: 10月21日(火)~24日(金)

開催日程: 3泊4日の札幌発着バスツアー

コース案: 枝幸→興部→紋別→北見→網走

(※上記のガイド研修受講生も参加予定)

- ◆ ガイド研修及びモニターツアー結果の取りまとめ
- ◆ 中間報告の取りまとめ

第2回オホーツク遺跡街道推進ネットワーク会議

11月下旬

北見市民会館にて開催

〈主な議題〉

- ガイド研修及びモニターツアーの結果報告
- モデルコース(コンテンツ)の磨き上げ
- 持続可能なガイド人材育成・活用体制の検討

〈次回議題の投げかけ〉

- 将来的な商品化に向けた販路体制の構築
- 構成員の拡大に向けた具体的な戦略検討
- ロードマップにおける各取り組みのKPI(重要業績評価指標)の検討

- ◆ 第3回会議の議題について、事務局及び構成員と事前協議
- ◆ 「オホーツク遺跡街道構想(第3版)」の取りまとめ

第3回オホーツク遺跡街道推進ネットワーク会議

2月中旬

網走市オホーツク文化
交流センターにて開催

〈主な議題〉

- 次年度以降のネットワーク運営体制の構築
- 将来的な商品化に向けた販路体制の構築
- 構成員の拡大に向けた具体的な戦略検討
- ロードマップにおける各取り組みのKPI(重要業績評価指標)の検討
- 「オホーツク遺跡街道構想」の更新

5-(1) モデルコースの検証と磨き上げ

■ モデルコースの検証

過年度に策定された「オホーツク遺跡街道構想モデルコース『オホーツク歴史紀行(夏編) 一流氷の海と古代文化』」を、今後の商品化に向けてさらに検証し、魅力的なコースへと磨き上げることを目的に、モデルコースの検証を行うとともに、それに基づきモニターツアーを開催します。

モデルコースの検証は、モニターツアー実施前に「推進ネットワーク」の構成員にヒアリングを行うとともに、受入施設との調整を踏まえて、モニターツアーのコースを設定します。具体的には、以下に示すモニターツアーにより、専門家目線、消費者目線、事業者目線からモデルコースの特徴やコンテンツの魅力、満足度、採算性などを評価し課題を抽出したうえで、より魅力的なコースへと磨き上げます。

また、オホーツク・テロワール等の既存のホームページにモデルコースの見どころを紹介し、その周知を図ります。

■ モニターツアーのモニター選定及びツアー手配について

モニターの選定（合計10名以上）	
一般参加者	歴史学や観光学の研究をしている大学生、旅行愛好者など（3～5名） ・北海道大学観光メディア研究科の学生、院生など ・旅行会社の旅行クラブメンバーなど
有識者	オホーツク文化に詳しい専門家、観光学の研究者など（2名） ●田才 雅彦 (文化財サポート) (専門:考古学) プロフィール: 北海道教育庁に文化財保護主事として勤務。遺跡の発掘調査や記念物の保存活用に長年携わる。2015年に定年退職後、文化財サポートを設立。道内外で文化財を活用したまちづくりや史跡の保存活用などの支援を行う。また、大学講師や各種講演を行い、『アイヌ文化史辞典』では「チャシ」などの項目を執筆している。  ●遊佐 順和 (旭川市立大学教授) (専門:観光学、食文化) プロフィール: 北海道大学大学院(教育学専攻)修了。AIR DO北海道国際航空株式会社、株式会社ホテルオークラ札幌、札幌国際大学教授を歴任し、本年度より現職に就く。内閣府地域活性化伝道師、北海道住宅供給公社理事、一般財団法人北海道開発協会評議員、一般社団法人和食文化国民会議 全国「和食」連絡会議「和食」地域特派員なども兼務している。 
オホーツク地域の観光関連事業者	ホテル関係者、バス事業者、タクシー事業者、着地の旅行会社など（3名） ・地元関係者と協議して決定
インフルエンサー	マーケティング的な観点からモデルコースへのフィードバックを得ることを目的として、北海道の情報発信実績や街歩きツアーの実施経験を持つガイドなど(1名以上) ・「オホーツク、歴史、食、旅行」等のキーワードで発信可能な人物
メディア関係者	北海道新聞社や北海道テレビ放送(HTB)など（1名以上）
その他同乗者	ガイド研修の受講生:3地区の代表者それぞれ1名（合計3名）
	北海道運輸局、推進ネットワーク事務局、受託会社等（合計5名）

ツアーの手配:旅行会社の選定

北海道中央バス株式会社 シービーツアーズカンパニー	今回のモニターツアーは、全行程バスで移動し、主に歴史資源を周遊するツアーであることから、本遺跡街道構想事業のアドバイザーで、歴史・文化ツアーに詳しい戎谷氏の所属する北海道中央バス(株)の協力を得て進めます。
------------------------------	---

5-(1) モデルコースの検証と磨き上げ

■ モニターツアーの内容について

モニターツアーは3泊4日で、将来的な商品化を見据えて札幌発着のバスツアーとして実施します。開催時期は10月21日(火)～24日(金)で調整中であり、コース案の詳細は以下の通りです。

今回のモニターツアーでは、オホーツク文化を代表する目梨泊遺跡(枝幸町)を含めており、オホーツク文化人が北から南へと移動してきた道筋を辿るコースとなっています。移動距離は長くなりますが、オホーツク文化の3大拠点(目梨泊、常呂、モヨロ)を巡ることができます。

ツアーのスルーガイドとしては、北海道の歴史全般やオホーツク文化に詳しい田才雅彦氏にお願いする予定です。

コース案：枝幸→興部→紋別→北見→網走

1日目	8:00 札幌市内 出発			
10/21 (火)	11:30 道の駅なよろ(昼食) 13:30 オホーツクミュージアムえさし 15:00 目梨泊遺跡 16:30 ノースプレーンファーム 18:00 興部町内(宿泊)			〈宿泊〉 興部町内
2日目	9:00 沙留岬遺跡で発掘体験 11:30 沙留漁港(昼食・地元漁師料理) 13:00 オムサロ遺跡公園 14:00 紋別市立博物館 15:00 流水科学センター 16:00 旧鴻之舞金山 17:30 サロマ湖畔(宿泊)			〈宿泊〉 サロマ湖畔
3日目	9:00 ところ遺跡の森 10:30 トコロチャン跡遺跡群 11:30 常呂(昼食) 13:30 網走湖(カヤックツアー) 16:00 道立北方民族博物館 17:30 網走市内(宿泊)			〈宿泊〉 網走市内
4日目	9:00 モヨロ貝塚館 10:00 土器づくり体験 12:00 網走市内(昼食) 18:00 札幌市内 到着			
10/24 (金)				

■ コース案作成の基本的な考え方

●オホーツク文化ならではの体験活動を充実させる

今回のモニターツアーでは、多くの体験要素を組み合わせています。オホーツク文化遺跡の発掘体験、土器づくり体験、カヤックツアーなど、かつてのオホーツク人の気持ちになって、その時代の生活文化や景色を体感できるコースとなっています。

特に今回、遺跡の発掘体験を新たな体験プログラムの一つとして考えています。このプログラムは昨年来、地域の関係者が非常に力を入れ検討しているテーマで、本格的な発掘とまではいきませんが、一部でも体験できるよう地元との調整を進めています。

それから、土器づくり体験も、昨年の「オホーツク遺跡街道構想」事業で生まれた体験メニューの一つです。地元の陶芸愛好家がオホーツクの新しい観光コンテンツとして商品化にまで育て上げたプログラムです。地元の土で土器が作れることを実際に体験し、後日、焼きあがった土器がご自宅に届きます。

5-(2) ガイド人材育成

■ ガイド研修の目的

オホーツク文化の魅力を効果的に伝えられるガイド人材を育成することを目的に、ガイド研修を実施します。ガイドには、専門ガイドからボランティアまで様々なレベルが存在し、ともに重要な役割を果たしていますが、インバウンドを含むオホーツク地域の観光ニーズを考慮すると、地域の歴史を紐解ける専門ガイドの育成が急務です。

また、ガイド人材の育成とあわせて重要なことは、オホーツク地域でガイドが活躍する場を増やしていくことです。これまで博物館等の学芸員がガイド役として対応しているケースがほとんどでしたが、今後はそれに加えて専門ガイドが活躍できる環境を地域で育てていくことが必要です。本業務では、その道筋を推進ネットワークのメンバーと構築していきます。

■ ガイド研修のプログラム構成案について

ガイド研修プログラムはオホーツク遺跡街道の主要拠点である網走市、北見市(常呂地区)、紋別市&興部町の3地区で開催します。網走管内のオホーツク遺跡は相互に影響し合いながら形成されたものであるため、受講生には原則として3地区すべての研修に参加してもらいます。各拠点の歴史・文化的特性を踏まえ、実践に役立つ内容(座学+実地)で実施します。開催時期は9月30日～10月2日を予定しています。

	オホーツク遺跡街道・ガイド研修 in 網走(1日目)(9/30(火))	オホーツク遺跡街道・ガイド研修 in 北見(2日目)(10/1(水))	オホーツク遺跡街道・ガイド研修 in 紋別(3日目)(10/2(木))
募集対象	3地区で各3～4名ずつ募集		
募集人員	募集人員は、全体で上記の10～12名／受講生は原則3地区で開催する研修に参加		
当日進行	コーディネーター 田才 雅彦 氏		
午前 (座学)	場所: モヨロ貝塚館 (※座学はオンライン参加可能)	場所: ところ遺跡の館 (※座学はオンライン参加可能)	場所: 紋別市立博物館 (※座学はオンライン参加可能)
9:00～	【専門講師】 戎谷 侑男 氏 (テーマ)「体験型コンテンツを盛り込んだツアー企画」	【専門講師】 田才 雅彦 氏 (テーマ)「オホーツク文化の特徴とその魅力」	【専門講師】 塩 博文 氏 (クスリ凸凹旅行舎代表) (テーマ)「人を惹きつけるガイド～顧客目線で考える～」
10:30～	【地区講師】 梅田 広大 氏 (地区テーマ) 「幻の民族～モヨロ人とは～」	【地区講師】 中村 雄紀 氏 (地区テーマ) 「常呂遺跡のすごいところ」	【地区講師】 佐藤 和利 氏 (地区テーマ) 「オホーツク人の豊かさの秘密～オムサロ遺跡を中心に～」
12:00～	昼 食		
午後 (実地)	場所: モヨロ貝塚 ほか	場所: ところ遺跡の森 ほか	場所: オムサロ遺跡公園 ほか
13:30～	地区講師(梅田 広大 氏)による ガイドデモンストレーション	地区講師(中村 雄紀 氏)による ガイドデモンストレーション	地区講師(佐藤 和利 氏)による ガイドデモンストレーション
14:30～	受講生によるロールプレイ (一人の持ち時間20～30分程度 × 各地区の受講生 3～4名ずつ)		
16:30～	専門講師・地区講師による総評、質疑応答、改善点の確認 など		

■ ガイド研修の検証と研修プログラムの磨き上げ

- ・ガイド研修受講者には、終了後、研修メニューや研修教材等に関するヒアリングを行い、研修内容を評価してもらいます。
- ・研修で得られた知見や上記ヒアリング結果等から、より効果的な研修プログラムと研修教材を作成します。
- ・本事業で作成した研修プログラム、研修教材を活用して継続的なガイド育成ができる体制のあり方を検討します。

■ ガイド研修教材について

各講師の協力を得て、今回の研修に使用する教材(テキスト)を作成します。次年度以降、そのガイドテキストを活用して新たな人材育成に取り組めるよう内容を充実させます。研修教材については、受講者をはじめ専門家にヒアリング調査を実施し、不足している情報や理解しにくい箇所の改善などを行い、専門ガイドのみならず、観光協会職員やホテル従業員も活用できる、オホーツク文化をわかりやすく伝えるための汎用性の高い教材に仕上げます。



●ガイド研修教材の構成案 (A5冊子・20頁程度)

- ①オホーツク文化とは
- ②オホーツク文化の主な遺跡
- ③特徴的な出土品
 - ・土器(刺突文、刻文、沈線文、貼付文)
 - ・動物意匠遺物(クマ、海獣、鳥類など)
- ④各地の遺跡にまつわるストーリー
 - ・常呂遺跡と東大考古学研究室との繋がり
 - ・モヨロ貝塚の発見者 米村喜男衛とは
 - ・司馬遼太郎が訪れたオムサロ遺跡 など

- ⑤遺跡ガイド時におさえておくべきポイント
- ⑥専門用語の英訳集
- ⑦各拠点施設の利用案内
 - ・開館時間、体験メニュー、予約窓口 など

沈線文土器

- ・オホーツク文化後期(8~9世紀)
- ・栄浦第二遺跡(常呂遺跡)出土



刺突文土器(十和田式土器)

- ・オホーツク文化前期(5~6世紀)
- ・利尻富士町役場遺跡出土



刻文土器

- ・オホーツク文化中期(7世紀)
- ・モヨロ貝塚出土



貼付文土器

- ・オホーツク文化後期(8~9世紀)



トコロチャシ跡遺跡

モヨロ貝塚

■ ガイド研修教材作成のために活用する既存資料等

『オホーツクの古代文化』
出版年月:2024年3月
編集:東京大学文学部常呂実
習施設・考古学研究室
ページ数:215ページ

『オホーツク文化
ーあなたの知らない古代ー』
出版年月:2021年11月
編集:横浜ユーラシア文化館・
東京大学常呂実習施設
ページ数:120ページ

『ふるさとポケットガイドブック
北海の狩人 オホーツク文化』
出版年月:2020年11月
発行:大地みらい信用金庫
ページ数:28ページ

『丘に眠るオホーツク文化』
出版年月:2018年11月
発行:斜里町立知床博物館
ページ数:52ページ



5-（3）推進ネットワークの運営及び構成員の拡大

「オホーツク遺跡街道構想」の推進母体として、令和6年4月に設立された「推進ネットワーク」の会議を3回開催します。本構想を今後も継続して推進していくため、さらなる構成員の拡充を図り、構想を実行可能なプロジェクトへと発展させます。

令和7年度の会議予定

- 第1回推進ネットワーク会議

➢ 開催日時: 令和7年8月26日(火)

➢ 開催場所: 紋別市オホーツク交流センター

➢ 参加者: 推進ネットワーク構成員、オブザーバー

➢ 主な議題

● R6 年度の事業報告及び R7 年度の事業内容

● ガイド研修及びモニターツアーの実施計画

● 各エリアの活動報告等、継続的な活動に必要な情報共有及び意見交換

● 次年度以降の事業推進のための体制整備及び構成員拡大の考え方

第2回推進ネットワーク会議

➢ 開催日時: 令和7年11 月下旬

➢ 開催場所: 北見市民会館

➢ 参加者: 推進ネットワーク構成員、オブザーバー

➢ 主な議題

● ガイド研修及びモニターツアーの結果報告

● モデルコースの磨き上げに関する議論

● 持続可能なガイド人材育成・活用体制の検討

➢ 次回議題の投げかけ

● 将来的な商品化に向けた販路体制の構築

● 構成員の拡大に向けた具体的な戦略検討

● ロードマップにおける各取り組みのKPI(重要業績評価指標)の検討

第3回推進ネットワーク会議

➢ 開催日時: 令和8年2月中旬

➢ 開催場所: 網走市オホーツク文化交流センター

➢ 参加者: 推進ネットワーク構成員(現構成員及び新規ネットワーク会員)、オブザーバー

➢ 主な議題

● 次年度以降のネットワーク運営体制の構築

● 将来的な商品化に向けた販路体制の構築

● 構成員の拡大に向けた具体的な戦略検討

● ロードマップにおける各取り組みのKPI(重要業績評価指標)の検討

● 「オホーツク遺跡街道構想」の更新

構成員の拡大方法

- ・オホーツク文化等に関係する法人や個人に参加を促し、構成員の拡大を図ります。
 - ・個人の構成員は、今年度予定されているガイド研修の受講生やモニターツアー参加者に呼びかけるなどして参加を促し、活発な事業運営を目指します。

令和7年7月時点	法人構成員	網走市、北見市、紋別市、興部町、4市町の教育委員会、(一社)網走市観光協会、(一社)北見市観光協会、(株)紋別観光振興公社、(一社)おこっぺ町観光協会、(一社)オホーツク・テロワール、(公財)オホーツク生活文化振興財団、オホーツク観光連盟、オホーツク総合振興局、オホーツク教育局、北海道運輸局、北海道開発局網走開発建設部
	事務局	(公財)オホーツク生活文化振興財団

構成員拡大案	法人構成員	オホーツク管内の代表的な観光企業など ※オホーツク管内以外(枝幸、斜里、標津など)への声掛けをどうするのか、要検討
	個人構成員(会員)	オホーツク遺跡街道構想に関心のある市民、研究者、観光関連事業従事者、専門ガイドなど

11